

特集 2

ドキュメント 伊能忠敬研究会 10年の歩み

伊能大図 214枚 史上初の全図公開まで

渡辺 一郎

伊能忠敬研究会はおかげさまで発足10周年を迎えました。会員のみなさまはじめ、たくさんのご支援に感謝し、厚く御礼申し上げます。

研究会がかかわったイベントは、95年11月に佐原でおこなったフランスのイブ・ペイレ氏蔵伊能中図の三日間里帰り展が初めてでした。以後、伊能忠敬は全国区であると称して、東京発信に切り替えました。

「江戸博・伊能忠敬展」から「伊能ウオーク」「俳優座の演劇・映画」「NHK・お正月時代劇」「富岡八幡宮の伊能忠敬銅像建立」「アメリカ伊能大図発見」「東京国立博物館の伊能展」「ペイレ中図修復」から神戸市立博物館から幕張大図展まで12箇所の「アメリカ大図単独フロア展」と、ほんとうによく輪が広がりました。この間、テレビ放送、新聞雑誌の記事は数え切れないくらいです。

率直にいつて、これほどまでに忠敬人氣が高まるとは夢にも思っておりませんでした。10年の歳月とはまことに偉大なものです。多くの方々のお世話になって実現した95年から10年間の主な出来事を、メモをたどりながら振り返ってみました。

伊能忠敬研究会の発足から江戸東京博物館の忠敬展

1995年(平成七年)3月27日 フランスに伊能図があるのを知り(日経記事)渡辺夫妻が調査のためパリ郊外のイブ・ペイレ氏を訪問。最高級の伊能中図8枚の完全揃いを確認し、日本展示を打診する。

95・4・6 朝日新聞夕刊「ひと」欄で渡辺の渡仏調査が紹介される。パリ支局長・清水弟さん(当時)発の第一報であった。

95・5・上旬 朝日新聞を見た伊能陽子さんから渡辺に電話がかかる。運命の電話だった。世田谷伊能家との付き合いのはじまりで、この電話が無かったら伊能忠敬研究会は発足しなかったかも知れない。伊能さんのお宅に地図の断片が色々あるので見て欲しいということでした。

95・11・17〜19 佐原市中央公民館でフランスの伊能中図里帰り展を開催(主催 佐原市・フランス中図展実行委員会)。佐原市の教育次長・香取禧良さん(当時)の尽力であった。市の予算は約160万円。朝日新聞の清水弟さんが「朝日新聞日曜版」編集長に戻っていて御協力をいただく。日本経済新聞は文化欄でフランス中図の里帰りを大きく報じた。NHKも取り上げていた。三日間に各地から3300人が佐原へ集まった。三好唯義、師橋辰夫(故人)、清水靖夫、鈴木純子さんから古地図専門家を集め検討会を開催。

いっぽう、安藤、伊能、渡辺の三人が中心になって伊能忠敬研究会を結成することとし、会場で参加を呼びかけた。会員目標50名。

95・11・96・3 伊能忠敬研究会会員募集の輪を広げる。全国から、歴史家、社会科教師、大学教員、主婦、測量技術者、忠敬ファン、土地家屋調査士など多彩な顔ぶれが入会。会報第一号(伊能図探求継承第7号)を3月1日に発行する。

96・5・22 「フランスの伊能図を江戸博あたりに持ってきたら」と朝日の清水弟さんと、朝日OBの雪山さん(元ボン支局長、渡辺と同居

に近い。清水さんを紹介していただいた）にいわれる。

96・6・23 第一回伊能忠敬研究会例会を開く。会員74名中47名参加。富岡八幡宮から間宮林蔵墓まで歩測大会をおこなう。浅井京子さん（当時富岡美術館学芸課長、現在早稲田大学助教授）が歩測名人第一号に入賞。清澄庭園で懇親会。

96・8・15 江戸東京博物館に「伊能忠敬展」を提案する。役員の学習院女子部教頭・斉藤仁さん（当時）と同道。（忠敬は深川黒江町から、日本測量を始めたのだから、江戸博で忠敬展をやるのか相応しい、というのが提案理由である）

96・2・11 九十九里町は町制施行40周年、忠敬生誕250周年を記念して、徳富蘇峰筆生誕地記念碑の隣に記念公園を設け、伊能忠敬銅像（制作者 千葉大学 上野弘道氏）を建立する。郵政省、忠敬生誕250周年記念切手を発行。

96・11・10 佐原で第二回例会。鈴木市長挨拶。小島一仁、渡辺一郎両名が講演。世田谷伊能家の史料などを展示。初めての自前の展示と講演会だった。

96・11・20 江戸東京博物館の担当から伊能忠敬展内定の連絡をうける。朝日新聞と組みたいとの事務方の意向があった。

96・12・4 国土地理院長の野々村さん（当時、現在日本地図センター理事）に相談し、野々村さんも「朝日」に持ち込むことに賛成。話を

してくれることになる。

96・12・20 朝日新聞・清水建宇さん（当時出版局企画担当、現在論説委員）ほかが研究会事務所に来訪。「日本歩け歩け協会・木谷専務理事らと、日本一周する伊能ウオークを考えている。朝日新聞120周年記念事業として提案したい」とのお話。もちろん賛成。

96・12・21 日本テレビで「人生50才の旅だち・伊能忠敬」放映される。（千葉県提供の45分番組。忠敬役は渡辺一郎。解説・案内は江守徹。企画段階から協力した）

97・上期 江戸博「伊能忠敬展」実現のため、佐原市の伊能忠敬記念館学芸員に展示物の借用を打診、英国海軍水路部に伊能小図借用申し入れなど事前交渉をおこなう。フランスのペイレさんにも了解をいたした。江戸博の「伊能忠敬展」内定をうけて、俳優座の古賀さん「俺も前から演劇と映画を考えていた」と仲間に入る。

97・9・29 「渡辺一郎著・伊能測量隊まかりとおる」出版。この本は日経文化欄の「フランスで伊能中図発見」の記事を受けて、NTT出版から申し出があったもの。古巣の人脈とは無関係で、あくまで出版企画ベースの話だった。この本は評判が良くて二ヶ月で再版がかかり、六刷りを重ねることになった。

97・10・13 日歩協・木谷専務の発案で、江戸博「伊能忠敬展」、伊能ウオーク、俳優座の企画など、グループ内の氣勢を揚げるため、「伊能測量隊まかりとおる」の出版パーティを日比谷のプレスセンターで開

く。関係者約150人集まる。伊能研から40名が出席。

97・10・26 「気象庁で最終本伊能大図写本43枚発見、国会図書館に移管」と全国紙各紙一斉に報道。発見者は研究会員で国会図書館特別資料課長(当時)の鈴木純子さん。渡辺は伊能忠敬記念館青木芸員と調査を委嘱され、事前チェックをおこなった。

会員でもあった朝日・堀田記者が報道面で尽力。のちに本図は、国会図書館と江戸東京博物館で同時公開し「伊能忠敬展」を盛り上げた。

98・初 江戸博の忠敬展、伊能ウォーク、俳優座舞台劇「伊能忠敬物語」は共同プロジェクトに決定し定期的に連絡会が開かれるようになる。のちに、土地家屋調査士会、国土地理院からも、代表が出席されるようになった。

98・4・10 ①伊能ウォークの計画が朝日新聞紙上で発表される。

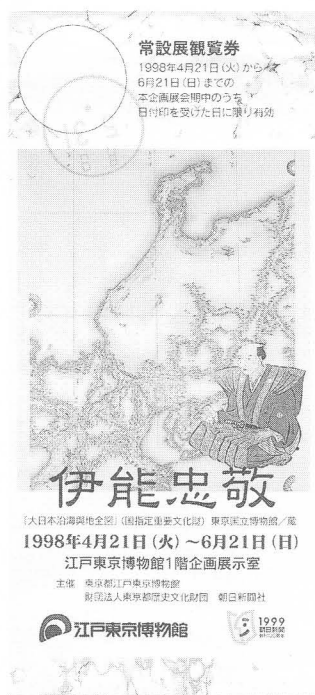
②高輪プリンスホテルで3プロジェクトのオープニングパーティが開催された。研究会員90名が出席。九州、関西など遠路をいとわない方々の熱意に感激する。

③同日付けで読売新聞「江東版」は、江戸博「伊能忠敬展」併催の歩測大会(主催・日歩協、伊能研)を大きく報道。江東支局に元気な記者がいて、渡辺に取材してやったことだが、朝日のパーティで大きな話題となった。

98・4・16 江戸博の「伊能忠敬展」開幕直前であるが、北海道の研究会員・高木崇世さんから、日本にも伊能小図の本州東部があるよとの連絡を受ける。渡辺が急遽東京都立中央図書館を調査した結果、日

本には無いとされていた伊能小図本州東部が見つかり、日本経済新聞に連絡して記事にしよう。

98・5・15 都立中央図書館の伊能小図について他紙の追従はなかったで、図書館から記者発表に値するかどうかについて意見を求められる。日本にないと言われていた地図の発見なので勿論発表に賛成。東京都教育庁は記者発表し各紙報道。大ニュースとなる。朝日、日経以外は全国版。朝日は東京版。日経は見送ったが、のちに詳しい解説記事を書いて追隨した。本図もあとで江戸博の「伊能忠敬展」に展示された。



98・4・21・5・6・21 ①江戸博「伊能忠敬展」開催 過去5年間で2番目の入場者があった。(入場者数111,399名を記録)

②期間中に併催事業として、忠敬隠宅から浅草吾妻橋を結ぶ約10キロのウォーキング&歩測大会を4回開催(日歩協との共催)。ウォーキングコース上に3箇所の歩測区間を設けた。調査票提出者509名、歩測名人6名、歩測達人18名が誕生。

③井上ひさし氏の講演会も開催。江戸博の講堂は満席。多数の方が床



会員でウォーク参加回数多かったのは、土肥さん52回、川上さんは65回、福田さん25回でした。会員で本部隊員の中山さんは、時々参加する勝手がわからない研究会員をよくサポートしてくれた。

ただ一人で孤軍奮闘してくれた方が多かった。渡辺は、主催者代表の一員として、また総隊長として講演、ウォーク参加のため二年間にちようど40回出かけた。伊能陽子さんは研究会の役員でもあるが、伊能家の広報担当のような役割もあつて、20回も出かけていただいた。

99・1・25 伊能ウォーク進発。各地の会員は地図説明員、ウォーク参加、イベントの設定に微力ながらよく健闘した。遠隔地の会員には、

ます事業家として成功し、隠居後は次世代のために全国を測量した先賢記」などから思敬が歩いた道や日程をたどり、「幕府の事業家になってからは測量隊も結構築き上げていたらしい。一行十数人。大きな町で二、三日滞在したり、観光したり。」

「私の歩幅は69センチで、偶然にも忠敬さんと同じなんです」。69歳。

99・9・15 テレビ朝日ニュースステーション「伊能ウオーク」放映。

99・9 忠敬が青春を過ごした横芝町で3本の記念碑を建立。忠敬父の実家・神保誠氏宅前に「伊能忠敬成長の処」碑。父の分家を継ぐ神保弘之氏宅前に「伊能忠敬の父貞恒生活の処」碑。伊能隊が天測をした宿舎・海保兵右衛門宅跡に「伊能忠敬宿泊地観測地」碑である。

99・9・30 「最終上呈版 伊能図集成」渡辺一郎、鈴木純子編 柏書房を公刊。平成9年に気象庁で発見された伊能大図写本の全図を集録。

99・11・1 NHK歴史番組「そのとき歴史が動いた」で「伊能忠敬」を放映。渡辺、撮影指導と出演。

99・12・10～27 俳優座、新国立劇場で舞台劇「伊能忠敬物語」22回公演。はじめての舞台劇化。(主催 俳優座 朝日新聞社 後援 伊能忠敬研究会 日本ウォーキング協会 佐原市 ほか)

00・2・25 図説「伊能忠敬の地図を読む」渡辺一郎著 河出書房新社公刊。伊能図だけを説明したはじめての本。

00・5・26 伊能ウオーク福江大会にあわせて、測量中福江島で病没した坂部貞兵衛の墓所・宗念寺において、約190年ぶりの墓前祭が執行され、伊能家より坂部貞兵衛の忠敬宛書簡10通が福江市に寄贈された。

00・6・24 伊能ウオーク来島にあわせて、屋久島の上屋久町宮の浦に「伊能の碑」が建立された。伊能ご夫妻出席。

00・10・6～11・6 北九州歴史博物館で「伊能忠敬と九州展」開催。主催者 伊能忠敬と九州展実行委員会(北九州市 朝日新聞社 伊能忠敬研究会)・北九州歴史博物館。これまで未公開の九州第一次測量の大図、会員藤岡健夫氏蔵の伊能大図、書簡などが公開された。

01・1・1 伊能ウオークゴール、完歩式典。竹芝桟橋で隊列を整頓し、晴海通り一車線を使用して、踏破記念式場の日比谷公園野外音楽堂までパレード。出迎えウオーク参加者を含め全隊列は約四千人。

01・1・3 NHKお正月時代劇「四千万歩の男・伊能忠敬」を放映。主演は橋爪功、高島礼子。視聴率10・2%。まずまずの成績。渡辺が制作指導にあたり、測量、天測、製図場面を考証。

世紀の大図発見と銅像建立

01・3・31 アメリカ旅行中の渡辺が議会図書館で伊能大図模写本207枚を発見。抜き取りで精査し、伊能大図模写本と確認。帰国後、国土地理院星参事官、堀野測図部長と協議。学術調査を行うことに。

01・4・8 広島県神辺町に「箱田良助生誕之地」碑が建てられた。箱田良助は忠敬の内弟子で、大日本沿海輿地全図完成に尽力した。のちに榎本家に入夫して円兵衛と名乗る。榎本武揚の父。

01・6・18～22 米議会図書館で日本国際地図学会、伊能忠敬研究会、日本地図センター合同の調査。模写本207枚を全部開いて内容を確認。議会図書館地理地図部長エーベル博士に「日本で展覧会をやりたい。全部貸してくれないか」と、最初のジャブを送る。エーベル博士は目

をバチクリ。「コピーでよいのではないか」「日本には一部ではあるが本物が残っている。コピーだけでは話にならない。一部でもいいが、本物が借りられないか」「それなら可能かも知れない」「とにかく複製制作の検討をする。サンプルとして4枚分のデジタルデータをいただきたい」「了解した」というような経過だった。毎日朝から根気よく地図をめくっているメンバーを見て、エベール博士は「熱心だねー」と感心していたが、それに免じて4枚分の謹呈となったのだろう。

01・7・5 国土地理院関東地方測量部の会議室を借りて、日本国際地図学会、伊能忠敬研究会、日本地図センターの合同記者発表をおこなう。朝日、毎日、日経、産経、東京の各紙一面の大ニュースとなる。朝日は一面トップ、産経は一面で上から下までぶち抜き扱いだった。読売は社会面の大部分を当てていた。地方紙も一面が多かった。アメリカにも新聞のコピーを送って状況を知らせる。

01・7・6以降 つぎのような動きとなる。

①サンプル画像4面を入手、評価。②国土地理院、伊能忠敬研究会、日本地図センターの関係者間で、アメリカ大図を中心とする展覧会の構想を練り、次のような基本構想を定めた。

展覧会の基本構想

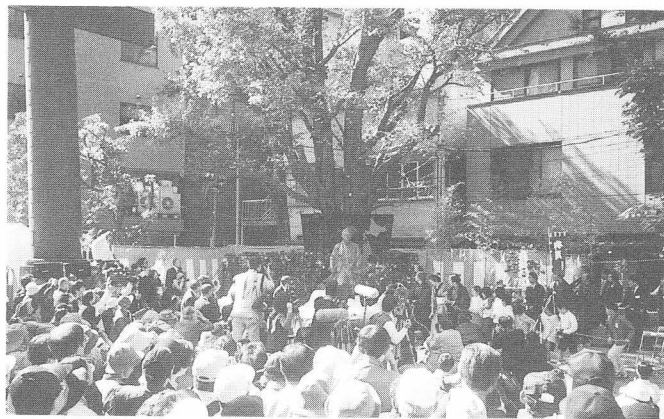
- ・博物館展とフロア展の二本立てとする。
- ・博物館展は新聞社等の事業部門に企画提案する。新聞社等のほか、地図・測量関係の団体にも声をかけ、実行委員会を結成する。
- ・国土地理院も委員会に参加する。
- ③全図のデジタルデータ入手について、議会図書館・エベール博士に見積もりを依頼する。

01・9・26 北九州市小倉の常盤橋際に、伊能測量隊の九州測量出発点を記念して、北九州市の一級測量基準点をかねたモニメントが建設された。北九州測量協会、地元商店街有志、伊能忠敬研究会九州支部などの募金によるものである。

01・10・10 釜石市大石出河岸に「伊能忠敬海上引縄測量之地」という記念碑が建てられた。この場所は伊能隊が第二次測量の際、湾口を船で縄を引いて測量したところである。

01・10・20 伊能隊が出発の際、必ず参拝した東京深川の富岡八幡宮に、伊能測量開始200年を記念して、伊能忠敬銅像建立実行委員会の提唱で銅像が建立され除幕式が挙行された。

建立資金は、銅像建立実行委員会に参加した日本測量協会、日本ウオーキング協会、全国測量設計業協会連合会、日本土地家屋調査士会連合会、朝日新聞社、伊能忠敬研究会、月星化成㈱、日本地図センター、劇団俳優座および国土地理院有志の協力により、加盟団体員および一般か



ら公募した。富岡八幡宮、朝日新聞社、読売新聞社、佐原市、横芝町、九十九里町からもご拠出をいただき、募金総額は二千二百万円余に達した。制作は彫刻家 酒井道久氏（埼玉県立大学助教授）、監修は伊能洋氏にお願いした、

01・11・17 俳優座で製作の、映画「伊能忠敬―子午線の夢」を東映系136館で上映。

アメリカ大図の里帰りをめざして

01・12・13 日本テレビ番組「知ってるつもり」で、ワシントンの議会図書館へ伊能大図発見模様を渡辺が同行取材。当初は日テレからの撮影要請に対し、保存状態が悪いことを理由に了解が得られなかった。しかし地図借用の交渉もしたので、渡辺は単独でも渡米の意志を固めていたところ、日本テレビも現地解決を期待してロケを実行した。当日はエベール博士の判断で撮影が認められ、撮影終了後に、エベール博士より展覧会のために全図無償で貸与可能という図書館側の正式な回答が伝えられた。博物館展の前提が固まった瞬間である。

01・12 中日新聞社、共同通信社、日本地図センター、国土地理院、日本測量協会、全国測量設計業協会連合会、日本土地家屋調査士会連合会、日本ウオーキング協会の代表が集まっていた、関東地方測量部会議室で「アメリカ伊能大図展」の準備会合を開く。

展示構想について討議。フロア展、博物館展の併催は、これまでの展覧会のビジネスモデルには無いので難航したが、実行が決まった。

02・1・27 日本テレビ「知ってるつもり」でアメリカ・ロケの内容を

まとめた伊能忠敬を放映。視聴率12・1%だった。

02・2・27 佐倉の歴史民俗博物館の伊能大図写し34、35号を調査し、アメリカ伊能大図の欠本であることを確認。調査員は国土地理院堀野測図部長、根本課長、青山助教授、渡辺、鈴木純子さん。

02・3・11 右大図について記者発表、展示公開。本図は秋岡コレクションの一部として入庫したもの。

02・3・12 伊能大図展第一回実行委員会開催。会則をきめ、委員、幹事を決定。会長 日本地図センター大竹理事長、委員 国土地理院 星植院長、日本測量協会中川会長、全国測量設計業協会連合会 鈴木会長、日本土地家屋調査士会連合会 西本会長、日本ウオーキング協会 岡野会長、中日新聞社社長、共同通信社社長、委員事務局長 伊能忠敬研究会 渡辺代表理事。展示構想について種々討議。

02・3・27 博物館展についてNHKが名義主催者となり、報道協力いただけることになる。

小学館で渡辺一郎編『伊能忠敬測量隊』の発行を決め、執筆依頼される。原寸複製「伊能図」（編著者 清水靖夫、長岡正利、渡辺一郎、武揚堂編集部 発行 武揚堂）刊行。

02・4・19 中日新聞見部長に要請し、ヨーロッパ訪問の帰路、議会図書館に立ち寄って交渉をお願いした。①地図は無償で貸与する。貸与先は国会図書館がいいと思う。貸与先を共同通信とすることに難色。新聞社等が展覧会事業をやるのが理解できなかったという。②デジタルデータ化作業は進めている。しわ伸ばし作業は100枚終っており、

スキヤニングを始める。10月には終るだろう。③輸送は、そのつどクーリエ便によりたい。03年秋からの開催は難しいだろう。

02・5・8 伊能洋・浅井京子、ふみさんのチームにより、無着色の大図サンプル（167号広島）に着色が完成、朝日東京版がカラーで紹介。

02・5・9 第二回実行委員会幹事を国土地理院で開催。驚見報告を確認。借用責任者は国土地理院とし、実務は共同通信が扱うことにする。デジタル化費用は国土地理院が地図センターに委託して、実行委員会名義で支払う。10月までに二分の一以上の入手を期待する。

02・5・25 北海道の高木会員の通報で、伊能忠敬の重要書簡の大阪古書展への出品が判明。偶々来合わせた産経新聞が第二社会面で大きく取り上げ話題に。親戚一同に当てた娘・イネの勘当赦免状で、勘当が実際におこなわれたことを証明する書状発見であった。新聞効果で多くの応札があつたが、最低希望額に達せず出品者に戻ったという。

02・6・8・9 富岡八幡宮で総会と銅像建立記念講演会、ウォーキング大会、歩測大会を催行。講演会120名、ウォーキング980名でまずまず。歩測大会は130名が挑戦した。

02・7・中旬 またまた伊能忠敬書状など22点250万円が古書市に出品されて驚く。伊能、伊藤、安藤氏に共同通信の記者と一緒に調べてもらったが、発見と云えるような史料はなかった。

02・8・5 地図借用は国土地理院とし、実務は共同通信が担当する。

料金は無償。送金は口座振込みとしたい。と確認を求めた。

東京国立博物館の佐々木室長よりの依頼で、同館で発見したという伊能小図三枚を実見調査する。伊能忠敬記念館の紺野学芸員も同席だった。高橋景保から昌平坂学問所に謹呈された三枚揃いで、ボロボロだったが、内容は全く問題なく、イギリス小図とよく似た図だった。針穴も鮮明だった。大発見なので別室で発表の段取りを打ち合わせ。

02・8・7 愛媛県立歴史文化博の安永学芸員、石野課長と来室。伊藤栄子氏立会い。東博伊能小図の事前取材あり、NHK今井、産経伊藤、共同通信山本のみなさん。

02・8・8 東京清瀬市・織本病院の織本先生、企画中の演劇「伊能忠敬」の打ち合わせに来室、秋に病院劇として上演される。終って東博の発表会場へ。星塾院長、原口課長、大竹理事長、前野部長見学に来室。記者発表。説明は佐々木室長と渡辺代表理事。取材参加は、東京、読売、朝日、毎日、道新、共同、時事の六社、朝日以外はカメラ付き。テレビはNHKとフジテレビ。NHKは7時のニュースで放送。

02・8・9 東博発表の各紙反応は次のとおりで、予想外の好評であった。産経Ⅱ題字下にカラー写真。第二社会面上段に大きく。日経Ⅱ第二社会面にモノで大きく扱っていた。記者は来なかったが、文化部の松岡編集委員から、こういう話はうちにも聞かせてよ、と意見があった。朝日Ⅱ第二社会面モノ。正確な記事だった。読売Ⅱ題字下に一面カラー。読売だけが学芸部扱いで、他は全部社会部扱い。学芸部出稿で題字下に載せるのは、出て来る前に、場所を決めていたのである。東京Ⅱ一面にカラー。実行委員会メンバーではあるが、よく頑張った

感じ。カメラは一番乗りだった。毎日一面にカラーで、第三社会面に引っぱり。署名原稿。

02・9・5 東京国立博物館宮島企画部長にアポを取り、伊能忠敬展の企画書を提出。東博では伊能小図の修復完了のお披露目をやる計画があるので、これとつなぐ可能性を探るため、共同通信が各博物館に渡している企画書をアレンジして持参した。国土地理院の小出部長と同行。東京会場の選定が行き詰まっており、星塾院長は東博実施にこだわっているので、一案を持って偵察に出かけたのである。東博は買取展示はやらない。新聞社等で自前でやっていたら、場所提供と指導料として入場料収入のX%を頂く方式であるとの説明で、場所は空いているとのことだった。図面等を受取り引き揚げる。

共同通信と中日新聞に連絡し検討を依頼する。新聞社側は売り渡し展で、自前ではやらないと決めていたのに、どうしたの、という話になる。東博展は仕込みが大変と新聞社側は及び腰である。

その後、収支を検討したらと、展示構成の詳細資料などを提供する。しかし、入場料収支を概算すると、少なくとも二千万円は足りないことが判る。それを聞いてウオーキング協会の木谷事務が、責任を持つて二千万円募金しようと云うがうまくいかなかった。

02・10・8 共同通信橋田記者からお正月の地方紙向け配信用の「伊能忠敬双六」作成の資料提供を求められる。この双六は17紙で利用され、最近の新記録になった。

02・11・27 データの到着が遅いので、地図センターの前野部長に協力を持参して、交渉してもらうよう決定。28日にメールを送信する。

02・12・4 エバー博士よりメール。43枚すでに完了。年内に77枚予定。前野訪米歓迎と。この訪問でデータ入手はスムーズになる。

02・12・10 歴史民俗博物館の柏木家文書（表題は伊能茂左衛門家文書）調査。伊能、伊藤、佐久間、渡辺、柏木、参加。

02・12・末 東博から「伊能展はやらないのですね」という電話。新聞社側から返事がないので、こちらも動けずそのままにしていたので催促であった。残念だが成案に至らなかった旨を話して謝る。

03・2・28 「伊能忠敬銅像建立報告書保存版」を全国の主要公共図書館に295冊発送。銅像建立委員会の仕事を終わる。100通近い礼状が到着。

ペイレ中図の補修と大図公開へ

03・4・2 星塾地理院長と関東地測で打ち合せ。東博で伊能図展が出来ないか、資金を負担して東博が秋にやる昨年発見の伊能小図展と合流の可能性がないか。という相談である。偶然であるが、同じ日に地理院の小出部長に対し、中日、共同から、東博では今年秋に平成館の半分を使って伊能図展をやる計画がある。そこにアメリカ大図を無償で貸してくれないかという相談があった。

03・4・22 実行委員会開催。東京国立博物館の「伊能図と伊能忠敬展」への協力を決め、関係先への折衝は国土地理院と共同通信社でおこなうことになった。アメリカ大図の実物を東博に貸すためには膨大な輸送費負担があること、議会図書館側は照度を30ルクスに指定しているが、東博側はそれでは展示にならないと、実物展の検討は難航した。

フロア展は、東京から大阪まで約60枚を平成館ロビーに展示することが決まり、伊能洋グループで急遽作業を進めることになった。

03・5・7・6・3 渡辺、仏のペイレさんの伊能中図借用依頼を兼ねて訪仏旅行。フランス中図借用は了解を得たが、大分傷んでいて展示に耐えないものがあり、新たな問題が起った。

03・6・9 地理院長打ち合わせ。渡辺、小出、前野、畠山。状況を確認し今後の方針を協議した。フロア展が成り立ったので、東博はアメリカの実物を是非にはいつていない。膨大な費用がかかるので実物展は断念したい。東博は館蔵の伊能図だけで展示が成り立つか。充分である。博物館展をすべて中止し、フロア展だけにしたら、との意見もあったが、院長、渡辺は反対。博物館展が無ければフロア展は盛り上がらない。神戸、仙台、名古屋、松山は博物館展を実現できるように努力することを確認した。フランス中図の修復については、名案がないので、マスキングを通じて呼びかけることにした。

03・6・11 共同通信の橋田記者から電話。「何か面白い話はないですか?」。感がいいねと、ビックリしたが、フランス中図がボロボロで展示が難しいことを話す。直ぐ伺いますと事務所に来室。話を聞いて、その場で原稿を書いて事務所から送信。

03・6・13 東京新聞、京都新聞、神戸新聞など地方紙の一面にカラーで大きく紹介。朝日新聞の清水記者より電話。これは何とかしなければならぬ。朝日でも書こうといってくる。お出でいただいて事情を説明、タイミシングを狙うことになる。

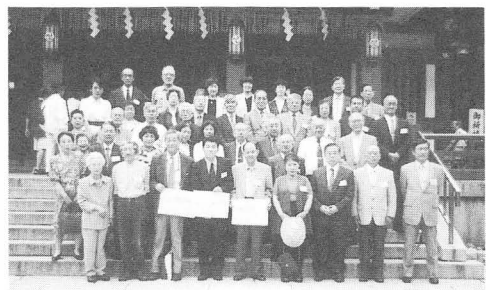
03・6・15 伊能忠敬研究会03年度総会。富岡八幡宮。伊能隊に提供された料理のサンプルを一式展示し、山盛りを一同で賞味した。

03・6・16 昨日の総会の記事が朝日新聞東京版に掲載された。京都の日本写真印刷㈱の岩村部長来室、ペイレ中図の無償修理を申し出られる。はじめ売り込みかと思ったが、改めて詳しくお話を聞く。

03・7・2・3 共同通信の坂本部長より電話。議会図書館の担当者は30ルックスを固執しているので、駄目なら断念と伝えたいので、幹事会を招集して欲しいとの要請を受ける。時間がなかったので、大竹会長を訪問、渡辺から各幹事の了承をとり持ち回り幹事会とすることを提案し了承される。旅費を実行委員会でも持ってもいいから押しかけて交渉すること。最後通告ではなく、「是非やりたいので、ルックス制限の緩和を了承して欲しい」という姿勢を貫くこと。先方もつぶれては困る筈だ。勝率は半分以上ある、と担当者励ます。地理院長および各幹事の了解を得て、共同通信に指示する。

03・7・8 家内と日本写真印刷㈱を訪問。広大な敷地を持つ大規模な印刷会社。作業工程などの説明を受け、納得しお願いする。

03・7・10 共同通信社木村氏より、アメリカ側が50ルックスを了承し



2003年度研究会総会・富岡八幡宮

たと連絡がある。奇跡が起こった。これで博物館展は成立する。一館数枚宛でもいいから、枚数を削減してまとめるよう共同通信にアドバイス。伊能イベントには、日写の件といい、朝日新聞の応援といい、こういうことが多い。

03・7・16 法政大学に歴史民俗博物館山本助教訪問。柏木家文書の調査報告会。渡辺、伊能、佐久間、伊藤、柏木、清水出席。柏木家は伊能家から養子を迎えて分家を作り、そこから内妻の妙諦が出ていることなどが明らかとなる。

03・7・29 渡辺一郎編著『伊能忠敬測量隊』刊行。

03・8・1 香取佐原支部長の案内で、元千葉県教育長だった岩崎佐原市長に挨拶。共同通信社坂本部長、木村氏同行。これまで、地図・測量関係の人たちと活動してきたが、学校教育、生涯学習の関係者の努力で輪を広げて欲しいとお願いした。

03・8・11 伊能大図着色の「色あわせ」を地図センターでおこなう。作業は画家が分担しておこなっているのですが、どうしてもバラツキが出る。並べてみて修正しようというのである。星埜院長、渡辺、伊能夫妻ら関係者出席し、朝日新聞、共同通信が報道した。

03・8・28 石川県那谷寺訪問。会員の河崎さんと所蔵する伊能図の沿海地図小図写本を実見調査する。出入りの造園業者が寄付したもので、業者の先祖は大聖寺藩の検地奉行だったという丁寧に作られた写本だった。共同通信と北国新聞が同行し報道した。

03・9・17 大阪研修旅行。東京発18名、大阪合流9名、合計27名。間観測所跡、間重富墓所参詣。御子孫の関西大学・間理事長からお出迎、案内、歓待を受ける。あと大阪市立科学館へ。学芸員の嘉数さんから「忠敬の天文学」の講話を聴く。また、「ラランデ曆書」、「仏国曆象編斥妄」、「曆象考成後編」の現物を見せてもらう。館内見学。素晴らしい理科教材の完備に西川会員（東大名誉教授）「もう一遍やりなしたいね。それにしても、こんなに揃っているのに理科の成績が悪いとは……」と慨嘆。宿舍の有馬温泉「兵衛向陽閣」はすばらしい宿。忠敬も測量の途中、この宿に泊まっているが、旅館の旧地は社員寮になっていた。

03・9・18 大阪市歴史博物館。巨大な施設で10階の展望室から見ると大阪城は目の下である。間さんの紹介で、相磯副館長から説明がある。館蔵の間重富の西国測量地図、書簡、望遠鏡、測量器具などを見学した。あと、適塾記念館へ。こんな狭い勉強部屋から明治の文化が開かれたと考えると感無量である。最後が司馬遼太郎記念館。独特の歴史解釈で、現代の大人たちを魅了する司馬文学の工房をかいま見た。

03・10・22 東博で伊能小図修復完了の記者発表。星埜院長と渡辺も出かける。翌日の朝刊では東京新聞が一面にカラー、朝日、読売が第二社会面だった。東博「伊能図展」の前宣伝としてはまずまずだった。

03・10・27 東博の伊能大図フロア展、大図60枚を展開する作業を記者公開。星埜院長、渡辺、伊能夫妻立会い。翌日朝刊では、日経が伊能夫妻を取り上げていた他は、共同の情報を地方紙が数紙乗せたのみで不発。このあと、読売が「顔」欄に伊能洋さんを取り上げた。

03・10・30 東博「伊能忠敬と日本地図」内覧会。大徳寺展と併催なのでものすごい人々々。セレモニー終了後、渡辺はすぐ展示場に入り、NHK海老沢会長に挨拶。その場で、大河ドラマで伊能忠敬を取り上げるように要望する。「佐原の鈴木市長に頼まれてネー」と、お正月時代劇で忠敬をやった楽屋を話し出す。渡辺は「その劇の考証に20日間も付き合いましたよ」と応じる。話の様子では、伊能忠敬研究会のことは知っていたようだった。



03・10・31 東博「伊能忠敬と日本地図」展開幕。朝日だけが「ひと欄に星塾院長を紹介した。昨日は記者があんなに多数いたのに掲載紙なし。朝日新聞だけが掲載してくれた。清水記者の御高配である。感謝のほかはない。」

03・11・15 日経文化欄に「伊能忠敬未公開文書集」制作が掲載される。
03・11・17 家内同伴、関西空港に伊能図を持参、来日されたペイレ夫妻を出迎え。ゲート到着から読売テレビがフォローした。伊能中図

の破損状況を確認する。あと南禅寺の料亭で日本写真倶楽主催の歓迎会。
03・11・18 ペイレさん記者会見。渡辺より出席者紹介のあと、ペイレ中図の発見経緯、伊能図の中の位置づけ、修理方法の説明、現物を報道公開した。テレビはNHK京都、京都放送、読売テレビ、NTV系列のドキュメントと四本であった。ドキュメントは4月4日放送された。新聞社は、朝日、毎日、京都新聞が地元版で詳細に報じ、日経、産経、東京が共同経由のニュースを全国版に掲載した。

03・11・26 アメリカ大図展実行委員会。各地のフロア展統々固まる。
(東博の伊能展の最終入場者は博物館の目標10万人を上回り、132,558人となった)

03・12・2 イブさん夫妻を東博に案内。そのあと、上野東天紅に移って食事。その際、ペイレ中図を譲渡していただく場合の条件を覚書として整理した(残念ながら価格が入っていないもの。譲渡意志の確認を目的とした)。覚書は後日清書し夫妻のサインを貰う。

03・12・4 アメリカ伊能大図展「図録」の編集委員会。アメリカ伊能大図展実行委員会編 記念誌委員長 渡辺一郎、編集委員長 鈴木純子、発行人 野々村邦夫で決定する。

03・12・8 イブさん夫妻を国土地理院に案内。院長、参事官情報管理課長、広報室長ら出席して歓迎昼食会。あと院内見学と記念撮影。

04・2・5 ペイレ中図修復完了し検収。デジタル化のための撮影現場

を公開する。一枚を数億画素、撮影時間で20数分露出するスキャナータイプの装置である。日本写真では美術品複製のため導入を考えていたところ、偶々伊能図修復を募る報道があつて手を挙げた。渡辺が「これまで伊能図は近づいて見ることが出来なかったが、完全複製ができるようになって身近で研究ができるようになった」とテレビコメント。

04・2・24 実行委員会開催。博物館展の要綱がきまる。フロア展に、釧路、武蔵大学、日大文学部学の追加を承認。

04・3・15 ペイレ中図修復完成披露とペイレ図の評価鑑定。渡辺、国際古地図コレクター協会日本代表の建築家・山下教授、会員の鈴木純子さんと全八枚の修復内容を最終確認。報道公開。

04・4・13 米国議会図書館エベール博士、アジア部の大田さんが、日本地図センターの招待で来日。十四日国土地理院で記者会見。十五日はエベール博士、東博、国会図書館見学。渡辺、鈴木出る。副館長応対、大図三枚、堀田小図、江戸府内図、シーボルト図などを見せる。学士会館で地図センター主催の歓迎会。参事官、小出部長、渡辺、鈴木、野々村理事長、星埜専務、新井常務、前野ら出席。

04・4・16 神戸市立博物館オープニング&内覧会。エベール博士挨拶。日本写真の現物大複製も展示。夜、研究会関西支部集会を開く。

幻の欠図四枚を発見

04・5・11 鈴木純子さんと海上保安庁海洋情報部で伊能大図の調査。未発見の四枚が全部海洋情報部にあることを確認。国土地理院 矢口参

事官、日本地図センター野々村理事長に連絡、海洋情報部への働きかけをお願いする。矢口参事官は18日、関係官をつれて実物を見学し、発表の方針などを海洋情報部と取り決めていただく。

04・6・20 東京国立博物館蔵伊能中図は豊橋藩大河内家旧蔵といわれてきたが、大多喜藩大河内家旧蔵が正しいと判明。

04・7・1 最後の伊能大図四枚の記者発表。海洋情報部で主催 伊能忠敬研究会、説明は渡辺と鈴木さん。同席 海洋情報部 渕上専門官、国土地理院 関崎技術専門員。事実上の合同記者会見である。

全国紙の朝日、読売、毎日、日経、産経、共同、時事、東京のほか北海道新聞が参加。テレビはNHKのほか、民放五社が全部来て呉れた。今回はNHKも社会部（いつもは文化部）から出てきて地図、インタビュート丁寧に撮ってくれた。最初の全大図展示は釧路フロア展からとアナウンスする予定なので、北海道新聞にも声を掛けたら、二組も記者が出てきた。社会部的扱いと、文化部的扱いである。このときから、釧路の大図フロア展、ニシベツの記念柱建立の報道が始まっていた。翌朝紙面、朝日、読売は社会面ド真ん中の一等地だった。

釧路で夢の全日本図が公開に

04・7・13 伊能忠敬研究会10周年記念として、15日から三日間の釧路・ニシベツツアーを計画し25名の参加が決まっていたが、NHKから渡辺に、釧路の大図フロア展を「ニュース10」で取り上げたいので、早く釧路入りするよう要請が入り先発した。伊東市長、教育長に挨拶。

04・7・14 新聞社は、共同、時事、北海道新聞、朝日、読売、毎日、

日経、釧路。テレビはNHKの他に民放五社が参加。テレビがあまり丁寧で時間をかけたので、新聞のカメラは道新以外は怒って帰ってしまふという一幕もあった。地元釧路新聞は遅くなっても、ゆうゆうと撮影し、翌日一面中央に大きくカラーで掲載した。来場は22、739名だった。過去の文化イベントでは第一位とのこと。釧路市が手を挙げて、しかも大図全国展示とさまたたとき、あとのフロア展のためにこれを応援し成功させなければと考えたが、関係者の多大な協力があって見事に成功した。幸運であった。

04・7・15 釧路プリンスホテルで東京からの一行と合流ニシベツへ。第一次測量記念柱の除幕式。釧路から八幡生涯教育部長、福島北海道地方測量部長、古谷実行副委員長出席。他に野々村理事長、石川氏。

丹羽期成会会長、渡辺が挨拶、神事、町長挨拶。あと別海温泉ホテルで祝宴。テレビはNHK、STV札幌テレビ。渡辺はSTVから郷土史家の吉川さんとコメントを求められ



会場には遅れて入ったが、焼肉料理で盛り上がり上がつていた。釧路に帰り、釧路市長の招宴に臨む。

04・7・16 大図展オープニングの式典。市長、伊能洋氏挨拶。ツアーの一同は、フロア展見学のあと、厚岸、霧多府を廻って宿舍の釧路プリンスホテル帰着。夜の食事は釧路フィッシャーマンで魚づくし。

04・7・17 会員は屈斜路湖、摩周湖、阿寒湖へ。渡辺と伊能陽子さんは残留。午後、全日空ホテルでシンポジウム。渡辺、講演後、司会 野々村氏、パネルメンバー 渡辺、伊能、津村、古谷(元助役)、伊東市長。

新しい十年に向けて

04・8・4 研究会事務局が日本地図センター二階に移転する。事務局開き。共同通信・橋田記者がビールを持って駆けつけてくれる。

* * * * *

この10年間、第二の人生の達人・伊能忠敬さんは、若い人々には努力の積み上げの大切さを教え、壮年には第一步を踏み出す勇気を与え、中高年にはまだまだこれからだ、という元気を与えました。いっぽうで、語らずして世の人々に、地図、測量の仕事の重要性を知らしめる役割も果たしております。

一步を踏み出す勇気と、たゆまぬ努力を続ける愚直さを持った忠敬さんを、益々多くの人々に知れ渡るよう努力しなければと考えてここまできました。一タ、これまでの大変幸運な経過を振り返ってみました。これからの新しい歩みに皆様のご支援をよろしくお願い致します。